

9年間で育成する児童生徒の姿の設定

に向けた取組の工夫

【根室市】歯舞学園の取組

○ 工夫のポイント

- ① 各種調査結果を基にした児童生徒の実態把握及び分析
- ② ワーキンググループによる「目指す子ども像」の検討及び設定
- ③ 「目指す子ども像」の実現に向けた検証改善サイクルの確立

- ・学校名（児童生徒数）
根室市立歯舞学園
○前期課程（94人）
○後期課程（48人）
- ・導入状況（導入時期）
義務教育学校（令和2年4月）
- ・施設形態（学年段階の区切り）
施設一体型（4－3－2）



歯舞学園

取組の工夫の実際

① 各種調査結果を基にした児童生徒の実態把握及び分析

- ・「目指す子ども像」の設定に向け、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等、各種調査結果から児童生徒の実態を把握するとともに、調査結果の分析を踏まえ、自校の課題を明確にした。
- ・第6学年は前期課程の教員で、第9学年は後期課程の教員で分析チームを結成し、分析結果を教務部及び研修部がまとめ、全教職員で共有を図った。

② ワーキンググループによる「目指す子ども像」の検討及び設定

- ・学校教育目標と各種調査結果の分析から明確になった課題を関連付けて、「知・徳・体」の3つの観点から「目指す子ども像」の検討を行った。
- ・前期・後期課程の枠を越えて教員を「知・徳・体」の3つのワーキンググループに分け、第4・7・9学年修了時の「目指す子ども像」について協議し、その結果を全体で共有するとともに、系統性を踏まえて整理し、「目指す子ども像」を設定した。

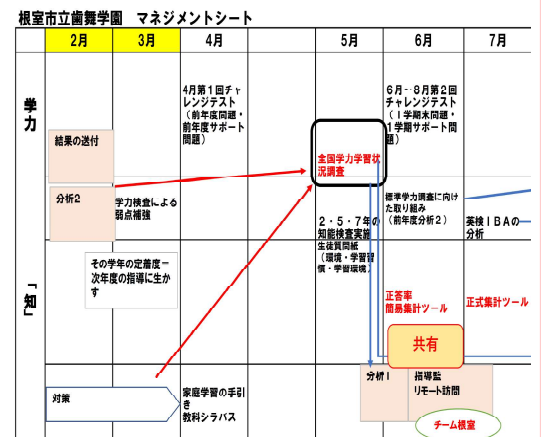
③ 「目指す子ども像」の実現に向けた検証改善サイクルの確立

- ・「知・徳・体」の観点から包括的に「目指す子ども像」の育成に向けた組織的な取組を推進するため、「マネジメントシート」を作成した。
- ・「マネジメントシート」には、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト、全国体力・運動能力、運動習慣等調査、「子ども理解支援ツール『ほっと』」等の各種調査による検証を位置付け、「目指す子ども像」の実現に向けた、検証改善サイクルの確立を図るようにした。

《めざす子どもの姿》

	知 自分から ①・②・③ 積極的に学習や対話ができる子ども	徳 人にやさしく ④・⑤ 仲間と協同して学校をよくする子ども	体 元気な体 ⑥・⑦ 自ら運動や健康管理ができる子ども
前期課程 4年の姿	・学ぶことの楽しさやよさを味わうとする子ども ・自分の考えをもち、相手に伝える子ども	・相手の事を理解し、意見を受け入れることができる子ども ・礼儀の大切さを知り、皆に対して適切に振舞うことができる子ども	・運動の楽しさや基本的な生活習慣の大切さを知り、それに向けて努力ができる子ども ・目標に向かって、粘り強く努力できる子ども
中期課程 7年の姿	・目的に応じて、自分に合った方法で学べる子ども ・自己を振り返り、身近な人に発信できる子ども	・謙虚な心をもち、思いやりで自分と異なる意見も尊重できる子ども ・時と場合をわきまえて、礼儀正しく振舞うことができる子ども	・基本的な生活習慣を基に、健康・安全の大切さに気付く。運動に意欲を持って取り組むことができる子ども ・困難があっても、くじけずやり抜くことができる子ども
後期課程 9年の姿	・自己実現のために、粘り強く学び続ける子ども ・未来の創造に向け、学びを地域に発信できる子ども	・互いを尊重し、様々な見方や考え方がある事を理解し、自らを高めることができる子ども ・礼儀の規範を理解し、時と場合に応じた適切な行動をとることができる子ども	・生活にわたって心身の健康を保持増進する能力を身に付け、運動を自主的に考え、行動できる子ども ・困難や失敗を乗り越えながら、物事を最後までやり抜くことができる子ども

【設定した「目指す子ども像」】



【マネジメントシート（一部抜粋）】

成果と今後の取組

○ 成果

- ・各種調査結果を全教員で分析し、協議したことにより、児童生徒の実態を把握するとともに、自校の課題を明確にすることができた。
- ・前期・後期課程の枠を越えたワーキンググループを設置し、学校教育目標と自校の課題を関連付けて協議したことにより、学年の系統性を踏まえた「目指す子ども像」を設定することができた。
- ・各種調査による検証を位置付けた「マネジメントシート」を作成したことで、「目指す子ども像」の実現に向けた検証改善サイクルの確立に向け、計画的に取り組む体制を整備することができた。

○ 今後の取組

- ・学校運営協議会等において、「地域の子どもは地域で育てていく」という意識を高めながら、家庭・地域と「目指す子ども像」を共有し、その実現に向けた取組の充実を図る。

9年間を通じた指導計画の作成

に向けた取組の工夫

〔雨竜町〕雨竜中学校区取組

○ 工夫のポイント

- ① 小・中合同研修の実施
- ② 相互授業参観や乗り入れ指導等による学びの連続性・系統性を踏まえた授業改善
- ③ カリキュラム・マネジメントの充実

- ・ 学校名（児童生徒数）
雨竜町立雨竜小学校（99人）
雨竜町立雨竜中学校（39人）
- ・ 導入状況（導入時期）
小中一貫型小・中学校（令和2年4月）
- ・ 施設形態（学年段階の区切り）
施設一体型（6－3）



雨竜小、雨竜中

取組の工夫の実際

① 小・中合同研修の実施

- ・ 小学校と中学校の教員が、全国学力・学習状況調査等の調査結果を合同で分析し、課題を共通理解するとともに、小中共通の学習プレートを活用し、1単位時間の学習過程の統一を図るなど、同じ視点で授業づくりに取り組めるようにした。

小1 2	小3 4 5 6	中	外国語活動・英語
かだい	課題	課題	Can-do
じぶんで	自分で	個人	To-do
みんなで	みんなで	集団	pair-work group-work
まとめ	まとめ	まとめ	Point
ふりかえり	ふり回り	振り返り	Review
みとおし	見通し	流れ	
もんだい	問題		
ポイント	ポイント		

【小中共通のプレート】

② 相互授業参観や乗り入れ指導等による学びの連続性・系統性を踏まえた授業改善

- ・ 小・中合同研修の一環として、全教員が授業者及び参観者となる授業交流週間（相互授業参観）を年2回設定した。
- ・ 乗り入れ指導や相互授業参観後の協議を通して、小学校と中学校の学習内容の系統性や発達の段階による指導方法の違いを把握し、具体的な指導の工夫や改善点を、9年間を通じた指導計画に加えた。



【授業交流週間の様子】

③ カリキュラム・マネジメントの充実

- ・ 国語科を要とした言語能力の育成と他教科との関連性を明らかにするため、年間指導計画を基に9年間を見通した領域ごとの系統表を作成し、小学校と中学校の全教員が、児童生徒の言語能力の育成を意識した授業づくりに取り組めるようにした。

国語科カリキュラム 小中系統表									
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
話す・書く	自分のことを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう
読む	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう	自分の気持ちを伝える あやう

【9年間を見通した国語科の系統表】

成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 1単位時間の学習過程や学習規律等の統一及び「9年間を見通した教科等の系統表」を作成したことにより、学びの連続性・系統性を踏まえた教育課程の改善・充実につながるとともに、小・中合同研修や相互授業参観等を通して、教職員の小中一貫教育への意識の向上を図ることができた。

○ 今後の取組

- ・ 個別最適な学びや協働的な学びの充実にもつながる教科等横断的な視点での教育課程の検証・改善を進める必要がある。

乗り入れ指導の実施

に向けた取組の工夫

〔浜頓別町〕浜頓別中学校校区の取組

○ 工夫のポイント

- ① 「学びのスタイル」、「校外生活のめあて」の作成
- ② 小中合同研修会による指導体制等の構築
- ③ 学びのつながりを意識した中学校体験授業

- ・ 学校名（児童生徒数）
浜頓別町立浜頓別小学校（115 人）
浜頓別町立浜頓別中学校（71 人）
- ・ 導入状況（導入時期）
小中一貫型小・中学校（導入時期未定）
- ・ 施設形態（学年段階の区切り）
施設分離型（学年段階の区切り未定）

取組の工夫の実際

① 「学びのスタイル」「校外生活のめあて」の作成

- ・ 乗り入れ指導の円滑な実施に向けて、小中一貫校推進委員会が中心となり、「学びのスタイル」及び「校外生活のめあて」を作成し、小学校と中学校が学習に関わる指導を、共通して行えるようにした。
- ・ 「学びのスタイル」では、目指す子ども像を全教員が意識して指導できるよう、他者の話の聞き方など、具体的な子ども像の姿を「学びに向かう子ども像」として整理した。

【小学生のみなさんへ】		【中学生のみなさんへ】		
■毎日、決まった時間に学習に取り組みましょう。 ■苦手な事にも挑戦しましょう。 ■自分から進んで学習できるようにしましょう。 ■集中して学習に取り組みましょう。		■一日の生活のなか学習時間を位置づけましょう。 ■学習・作業をしっかりと身に付けましょう。 ■自分にあった学習方法を身につけましょう。 ■興味のある内容を深く学習する力を身に付けましょう。		
小1	小2	小3	小4	小5
■基本的な学習習慣を身に付ける。		■自主的な学習習慣を身に付ける。		■自分で考え、工夫して家庭学習に取り組む。
■学年×10分+10分				
■学習習慣をつくりましょう。 ■問題プリントに取り組みましょう。 ■問題プリントを家庭で確認してもらいましょう。		■問題プリントに取り組みましょう。 ■漢字・計算をしっかりと身に付けましょう。 ■ローマ字学習を習得しましょう。		■問題プリントに取り組みましょう。 ■間違えた問題にもう一度取り組み、「わかる」「主観的に学習に取り組みましょう。
学 生 の 道	■平仮名及び片仮名の読み書きを十分に練習し、文の中で使いましょう。 ■一文字ずつ丁寧に練習し、文字の練習方法の基礎を身に付けましょう。 ■教科書を声に出して読みましょう。		■国語教科書の配当漢字を読み、文の中で使いましょう。 ■送り仮名、改行、句読点の使い方を理解し、文の中で正しく使いましょう。 ■ローマ字の読み書きを身に付けましょう。	
	■国語教科書の配当漢字を読み、文の中で使いましょう。 ■話し言葉と書き言葉を適切に使い分け、送り仮名を正しく付けましょう。 ■事実と虚構、意見を区別して理解し、文章の読			
【作成した「学びのスタイル」の一部】				

【作成した「学びのスタイル」の一部】

② 小中合同研修会による指導体制等の構築

- ・ 小・中学校の連携した指導体制を構築するために、合同研修会を実施し、児童生徒の学習状況や生活の様子について交流したり、乗り入れ指導時の児童生徒との関わり方や効果的な指導方法等について、全教員で共通理解を図ったりした。



【中学校教員による乗り入れ指導の様子】

③ 学びのつながりを意識した中学校体験授業

- ・ 乗り入れ指導の経験を生かし、小学校第6学年の児童を対象とした中学校体験授業では、児童が小学校の学びと中学校の学びのつながりを実感できる授業を展開し、中学校生活に対する期待をもたせたり、学習への意欲を高めたりする工夫を行った。



【中学校体験授業の様子】

成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 小・中学校で授業スタイルを共有し、授業参観や協議等を行うことにより、9年間を見通した指導への意識が高まり、系統性を踏まえた授業改善につなげることができた。
- ・ 中学校体験授業において、小・中学校の学びのつながりを実感できる授業を実施したことで、児童は中学校での学習に向けて、意欲的に学習に取り組むようになった。

○ 今後の取組

- ・ 小・中学校で重点的に指導する必要がある学習内容等を共有し、乗り入れ指導を中心に指導するなど、取組の成果や課題を短期的な検証改善サイクルで見取っていく。
- ・ 教務主任や研修担当者等の担当者間で指導計画等の見直しを継続し、9年間を見通した指導を充実させていく必要がある。

中学校教員による校区の小学校の教科担任制の実施 に向けた取組の工夫

〔石狩市〕厚田学園の取組

○ 工夫のポイント

- ① 前・後期課程で統一した日課表の作成
- ② 義務教育9年間の系統性・連続性を踏まえた指導
- ③ 組織的な学習評価の取組の改善

- ・学校名（児童生徒数）
石狩市立厚田学園
○前期課程（24人）
○後期課程（9人）
- ・導入状況（導入時期）
義務教育学校（令和2年4月）
- ・施設形態（学年段階の区切り）
施設一体型（4－3－2）



厚田学園

取組の工夫の実際

① 前・後期課程で統一した日課表の作成

- ・後期課程の教員が円滑に乗り入れ指導を行うことができるよう、前期課程の1単位時間を50分として後期課程と日課表を統一し、前期課程第6学年の国語科、算数科、社会科、理科、外国語科の5教科で、教科担任制を実施した。

時間	8:00～8:10	8:10～8:20	8:20～8:25	8:30～9:20	9:30～10:20	10:30～11:20	11:30～12:20	12:20～12:55	12:55～13:10	13:30～14:20	14:30～15:20	15:14:25～14:35	15:25～15:35	15:35～15:40	15:40～16:15:40	16:15:40～18:20
朝活動																
朝の会																
第1校時																
第2校時																
第3校時																
第4校時																
第5校時																
第6校時																
帰りの会																
下校																
最終下校																

【前・後期課程で統一した日課表】

② 義務教育9年間の系統性・連続性を踏まえた指導計画の工夫

- ・義務教育9年間の学習内容について、見通しをもって指導計画の作成や授業改善に取り組むことができるよう、系統性・連続性を踏まえた年間指導計画を一覧表にまとめて整理し、学習内容のつながりを明確にするとともに、学習の進捗や、繰り返し指導するポイントについて、教員間で確認できるようにした。

学年	4月	5月	6月	7月
1年	スタートカリキュラム ●くぐることがあるかな ●おおいのは、どちらかな 1. なかまづりと、かず/14	1. なかまづりと、かず/14 2. なんばめ 3. ひき算のしかたを考えよう/9	●どのようにかかわるかな ●しあがよう ●かすをさがそう 3. あわせていくとあるといふ ●おぼえてあるかな 4. のこりはいくらあるかな/14	4. のこりはいくらあるかな 5. どちらがながい ●学習の深化・補充
2年	●学びのたびら 1. わかりやすくあらわそう 2. たし算のしかたを考えよう 3. ひき算のしかたを考えよう/9	●どんな計算になるかな ●おぼえてあるかな 4. 長さははかってあらわそう/9	4. 長さははかってあらわそう/9 5. 100より大きい数値をあらわそう 6. 糸の長さをはかってあらわそう/9	6. 糸の長さをはかってあらわそう 7. 時計をきいて、きかす ●計算のしかたをくふう ●学習の深化・補充

【9年間の指導計画の一覧表】

③ 組織的な学習評価の取組の改善

- ・学校全体で学習評価の妥当性や信頼性を高めることができるよう、学習活動ごとの観点別学習状況の評価を数値に置き換えて総括する方法などについて、教員間で共通理解を図りながら、学習評価の取組を進めた。

学習活動	1	2	3	4	5	6	総括	単元の評価
知識・技能	3点			3点	2点		8/9点⇒89%	A
思考・判断・表現			2点			3点	5/6点⇒83%	A
主体性・学習に取り組む態度		2点		2点		3点	7/9点⇒78%	B

例えば、同じ観点の場合、割合は約83%となります。また、目とCが異なる場合、割合は50%となります。

評価の点数が増えても、この割合は変化しないので、このように基準を設定しています。

【学校全体で統一した学習評価の方針】

成果と今後の取組

○ 成果

- ・系統性・連続性を踏まえた指導計画を作成し、学習活動の工夫改善を図ったことにより、指導と評価の一体化に向けた授業改善を推進することができた。
- ・前・後期課程の教員が児童生徒に関わる機会を増やしたことにより、児童生徒の学習状況や生活の様子について、きめ細かく把握することができた。

○ 今後の取組

- ・個別最適な学びを進められるよう、学習に係る個人ファイルを作成し、個々の学習状況等の実態の把握に努めるとともに、全教職員で共有し、組織的に教科担任制を実施する。